

ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン 中間取りまとめ（平成26年3月）【概要版】

参考資料2

はじめに

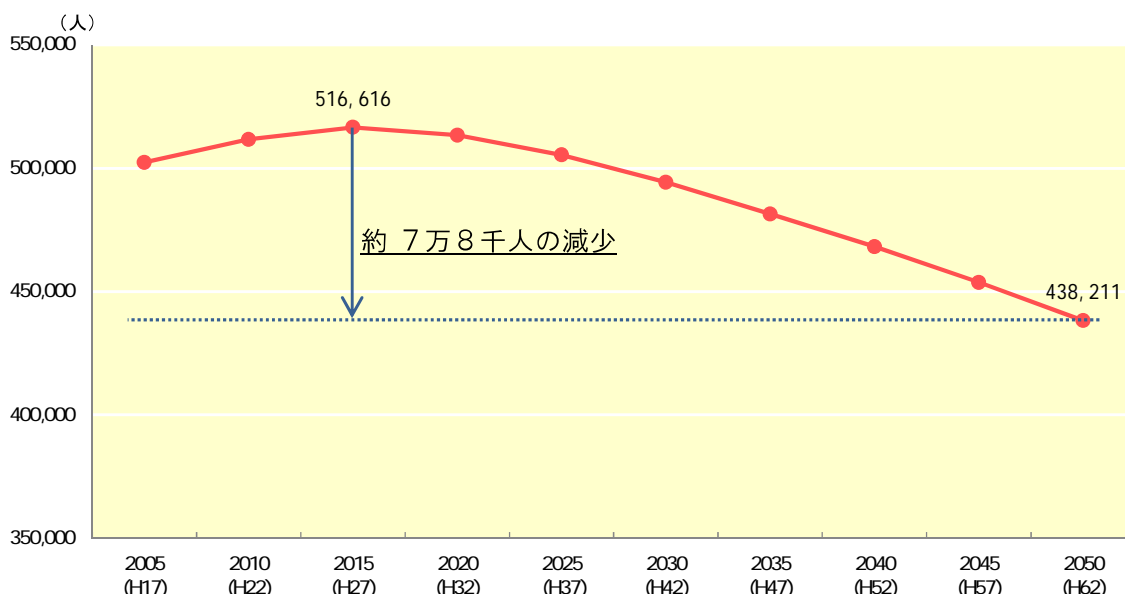
本市が今後直面する、人口減少や少子・超高齢時代の到来、環境問題への対応として、また、効率的で健全な都市経営を行う上で、コンパクトで自由・快適に移動できるまちづくりが必要になっています。

こうした中で、これからの本市の人口規模・構造や、都市活動に見合った都市の姿として、『ネットワーク型コンパクトシティ』を理念として掲げ、都市空間形成を進める上での構成要素である、「土地利用」「都市機能」「ネットワーク」について、本市の現状とそこから懸念される事項について整理・検討しながら、21世紀の半ばを見通した長期的な視点でのまちづくりの方向性となる「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」を作成してまいります。

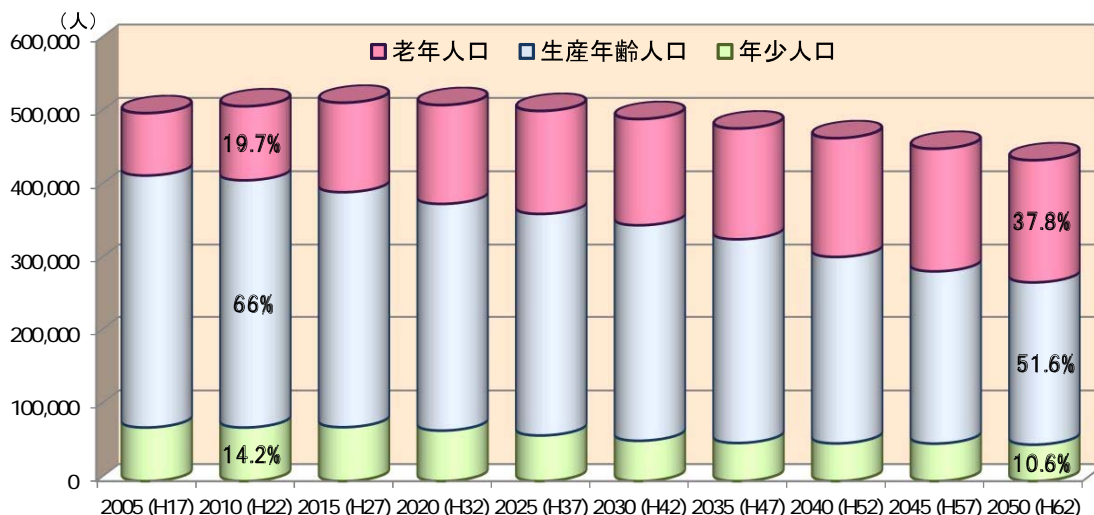
この度、ビジョンの形成に向けて、広く市民の皆様から御意見を頂きながら検討を進めるため、現時点での都市形成の考え方や将来都市構造のイメージなどを「中間取りまとめ」として提案いたします。

総人口・人口構造の見通し

本市の人口は、平成27（2015）年にピークを迎え、その後、減少に転ずるものと見込まれます。



本市の年齢別人口を見ると、65歳以上の構成比は、平成22（2010）年の19.7%から、平成62（2050）年には37.8%へ高まるものと見込まれます。

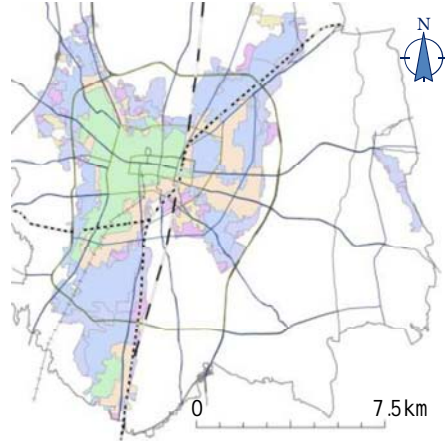


● 本市の現状と懸念される事項

□ 市街地の推移

二荒山神社を中心として集中していたまちは、人口の増加と比例しながら人口集中地区(D I D)が広がり、同時に中心部と郊外部における密度のメリハリが少なくなっています。

年次	DD 面積	人口密度
1960年 DIC	14.7 km ²	9,048 人/km ²
1970年 DIC	26.4 km ²	7,120 人/km ²
1980年 DIC	51.5 km ²	5,135 人/km ²
1990年 DIC	62.7 km ²	5,320 人/km ²
2000年 DIC	68.6 km ²	5,284 人/km ²
2010年 DIC	71.0 km ²	5,417 人/km ²



【市街地の低密度化が進んだ場合に懸念される事項】

▽人口減少によって、住宅地や集落の居住者がまばらになる。

⇒・人口密度が低下し、様々なサービスの提供が非効率になる(近所の店舗や診療所の撤退などによりサービスを受けにくくなる)

・隣人との距離が遠くなり、コミュニティの分断などが起こる

▽交通空白地域が増加する

⇒・公共交通の利用者が減少し、バス路線等が廃止される

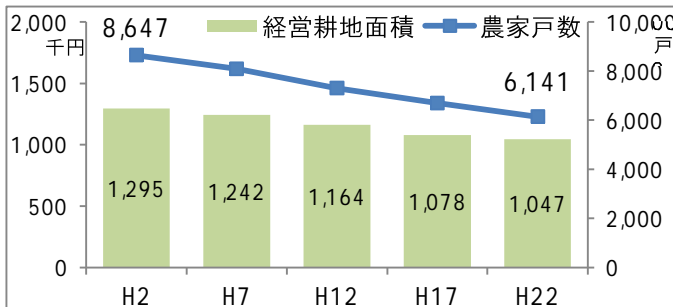
▽空き家、空き地が増加する

⇒・管理できない空き家等が増え、防犯・防災上の不安が増える

・草木の繁茂や建物の破損など空き家等の周辺の住環境が悪化する

□ 農地や農家の減少

本市の農地面積は年々減少し、この20年間で1割減少しています。また、農家戸数は平成2(1990)年の8,647戸から平成22(2010)年には6,141戸と、約3割も減少しています。



【農地や農家の減少が進んだ場合に懸念される事項】

▽良好な農地が減少していく

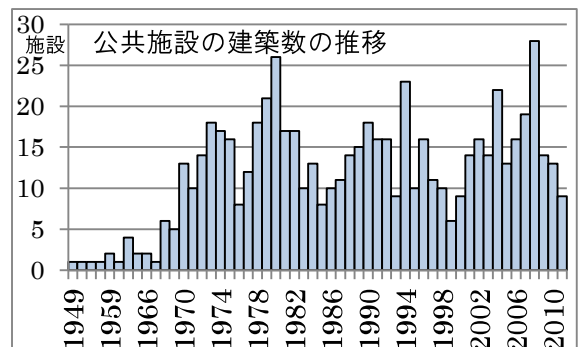
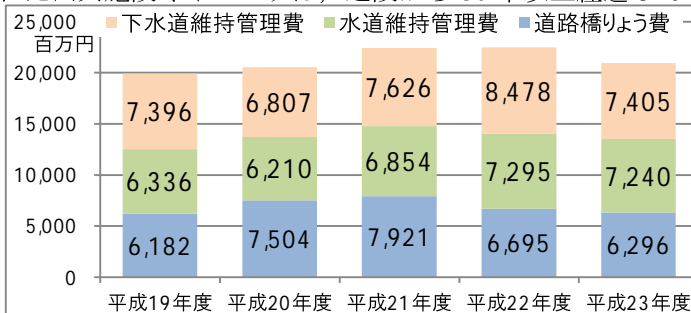
⇒・生産力が低下し、農産物の供給量が減少する

・後継者不足など農業の担い手が減少し、農村活力の低下を招く

・水を蓄えた田んぼが減少することで、保水機能など農業の持つ多面的な機能が失われる

□ 公共施設やインフラの更新・補修時期の集中

道路・橋りょう等の維持管理費は200億円程度で横ばいに推移しています。また、高度経済成長期に建設された公共施設やインフラは、建設から30年以上経過しています。



【公共施設等の更新・改修時期が集中した時、懸念される事項】

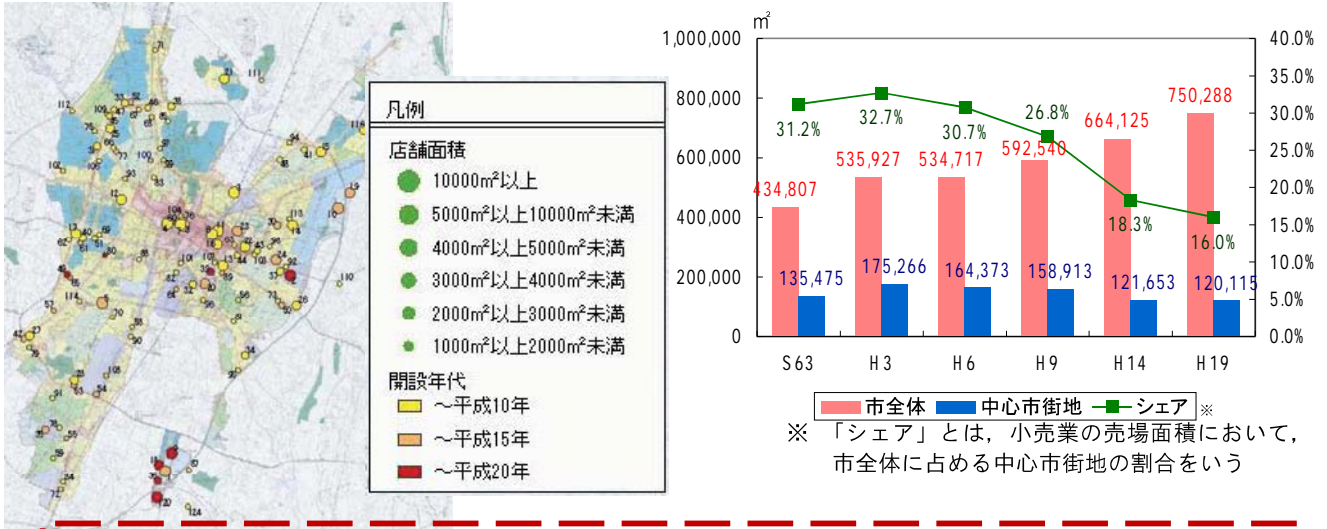
▽人口増加時代に建設された公共施設・インフラ施設の維持更新が必要となる

⇒・人口減少により税収が減少する中、維持更新に係る財政負担が増加していく

・身近な公共施設の統廃合などの必要性が高まっていく

□商業施設や医療・福祉施設等の郊外化・分散化

商業施設や医療・福祉施設等の都市機能は、郊外・分散立地しており、特に商業施設は、高速道路インターチェンジや工業団地周辺の郊外への出店が多く、中心市街地では、大規模小売店舗の撤退が相次いでいます。

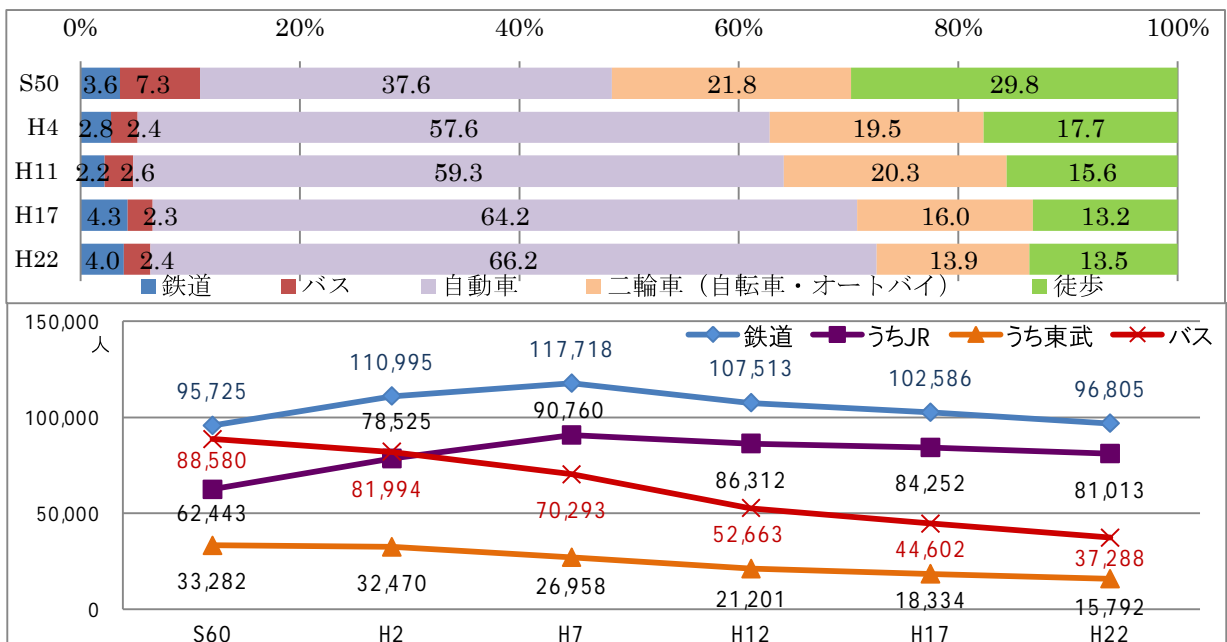


【商業施設や医療・福祉施設等の郊外化・分散化進んだ場合に懸念される事項】

- ▽本市の顔である中心市街地の衰退が進む
 - ⇒ ・居住者、来街者が減少により、賑わいが低下していく
 - ・集客力や発信力などの衰退により、本市のブランド力が低下する
 - ・人や物の交流の場が他都市に移っていく
- ▽市内各地域における利便性の低下が進む
 - ⇒ ・ロードサイド上の大規模店舗間の競争・競合が進む（一部は撤退していく）
 - ・歩いて行ける範囲にある、日常生活で必要となる商品を販売している小売店舗が撤退する
- ▽自家用車に依存した日常生活行動が強化される
 - ⇒ ・分散化した施設を利用するため、非効率な移動を強いられ、二酸化炭素の排出量を増加させる

□交通利用手段の状況

市民の代表交通手段構成を見ると、自動車への依存が強くなっており、公共交通利用割合が低い状況です。



【公共交通の利便性の低下が進んだ場合に懸念される事項】

- ▽自家用車に依存しなければならない状況が進む
 - ⇒ ・路線バスの廃止などが更に進む
 - ・自ら運転できなくなった時に外出等が更に困難となる
 - ・自家用車から公共交通への利用転換が進まず、二酸化炭素排出量が減少しない

都市の持続的発展への影響

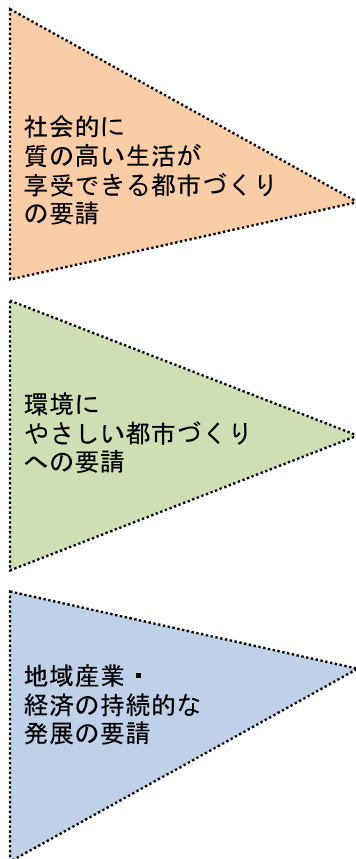
人口減少、少子高齢社会における、「土地」「都市機能」「交通」といった都市空間形成にあたっての構成要素での懸念事項は、市街地の拡大や都市機能の分散が進むと、都市の持続的発展に必要な「社会」「環境」「経済」の3要素への影響も大きくなります。

	社会	環境	経済
市街地の低密度化	<p>▽人口減少によって、住宅地や集落の居住者がまばらになる。 ⇒・隣人との距離が遠くなり、コミュニティの分断などが起こる</p> <p>▽交通空白地域が増加する ⇒・公共交通の利用者が減少し、バス路線等が廃止される</p> <p>▽空き家、空き地が増加する ⇒・管理できない空き家等が増え、防犯・防災上の不安が増える</p>	<p>▽空き家、空き地が増加する ⇒・草木の繁茂や建物の破損など空き家等の周辺の住環境が悪化する</p>	<p>▽人口減少によって、住宅地や集落の居住者がまばらになる。 ⇒・人口密度が低下し、様々なサービスの提供が非効率になる（近所の店舗や診療所の撤退などによりサービスを受けにくくなる）</p>
農用地の減少	<p>▽良好な農地が減少していく ⇒・後継者不足など農業の担い手が減少し、農村活力の低下を招く</p>	<p>▽良好な農地が減少していく ⇒・保水機能など農業の持つ多面的な機能が失われる</p>	<p>▽良好な農地が減少していく ⇒・生産力が低下し、農産物の供給量が減少する</p>
改修時期の集中・公共施設の更新	<p>▽人口増加時代に建設された公共施設・インフラ施設の維持更新の必要性が増していく ⇒・身近な公共施設の統廃合などの必要性が高まっていく</p>		<p>▽人口増加時代に建設された公共施設・インフラ施設の維持更新の必要性が増していく ⇒・人口減少により税収も減少する中、維持更新に係る財政負担が増加していく ・人口が減少するにも関わらず、道路等の整備、維持更新費用は減少しない</p>
商業施設や医療・福祉施設等の郊外化・分散化	<p>▽本市の顔である中心市街地の衰退が進む ⇒・本市の集客力や発信力など、ブランド力が低下する</p> <p>▽市内各地域における利便性の低下が進む ⇒・歩いて行ける範囲にある、日常生活で必要となる商品を販売している小売店舗が撤退する</p>	<p>▽自家用車に依存した日常生活行動が強化される ⇒・分散化した施設を利用するため、非効率な移動を強いられ、二酸化炭素の排出量を増加させる</p>	<p>▽本市の顔である中心市街地の衰退が進む ⇒・居住者、来街者が減少により、賑わいが低下していく ・人や物の交流の場が他都市に移っていく</p> <p>▽市内各地域における利便性の低下が進む ⇒・ロードサイド上の大規模店舗間の競争・競合が進む（一部は撤退していく）</p>
公共交通の利用度の低下	<p>▽自家用車に依存しなければならぬ状況が進む ⇒・路線バスの廃止等が更に進む ・自ら運転できなくなった時に外出等が更に困難となる</p>	<p>▽自家用車に依存しなければならぬ状況が進む ⇒・自家用車から公共交通への利用転換が進まず、二酸化炭素排出量が減少しない</p>	

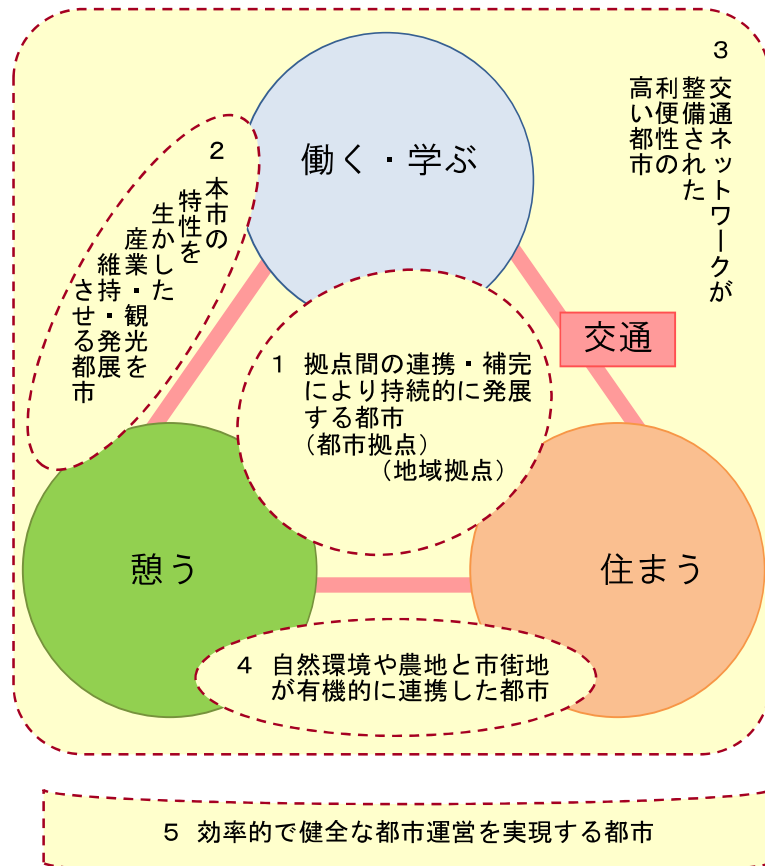
● 今後のまちづくりの理念

本市が将来の都市像として、これまでに掲げている『ネットワーク型コンパクトシティ』の形成を着実に進めていくため、「形成ビジョン」では、21世紀の半ばの2050年を見通した、社会潮流や都市に求められる機能を備えた空間形成の考え方を示し、今後も持続的に発展し続けることのできるまちの実現に取り組みます。

【社会潮流】



【都市空間形成に求められる機能】



実現するための都市の姿 『ネットワーク型コンパクトシティ』

『 今後も持続的に発展し続けることのできるまち 』

● 本市が目指す『ネットワーク型コンパクトシティの姿』

本市のこれまでの地域の成り立ちや基盤整備の状況を十分に踏まえ、それぞれの地域の維持・発展も目指す、本市独自の多核連携型による都市空間となる『ネットワーク型コンパクトシティ』の形成を目指します。

その形成に当たっては、本市の中心市街地と、各地域の既存コミュニティなどに地域特性を踏まえた各種の都市機能が集積した拠点を形成します。

また、本市の骨格となる交通網から、日常生活に身近な移動を支える交通網まで、階層性を持った交通ネットワークによって拠点間の連携・補完を進めます。

これらの「拠点化」「ネットワーク化」によりコンパクトなエリアにおいて、日常生活に必要な機能が充足できるとともに、市民生活の質や、都市としての価値・活力を高めることのできる都市空間を形成します。

■ 本市が目指す、『ネットワーク型コンパクトシティ』の特徴 ■

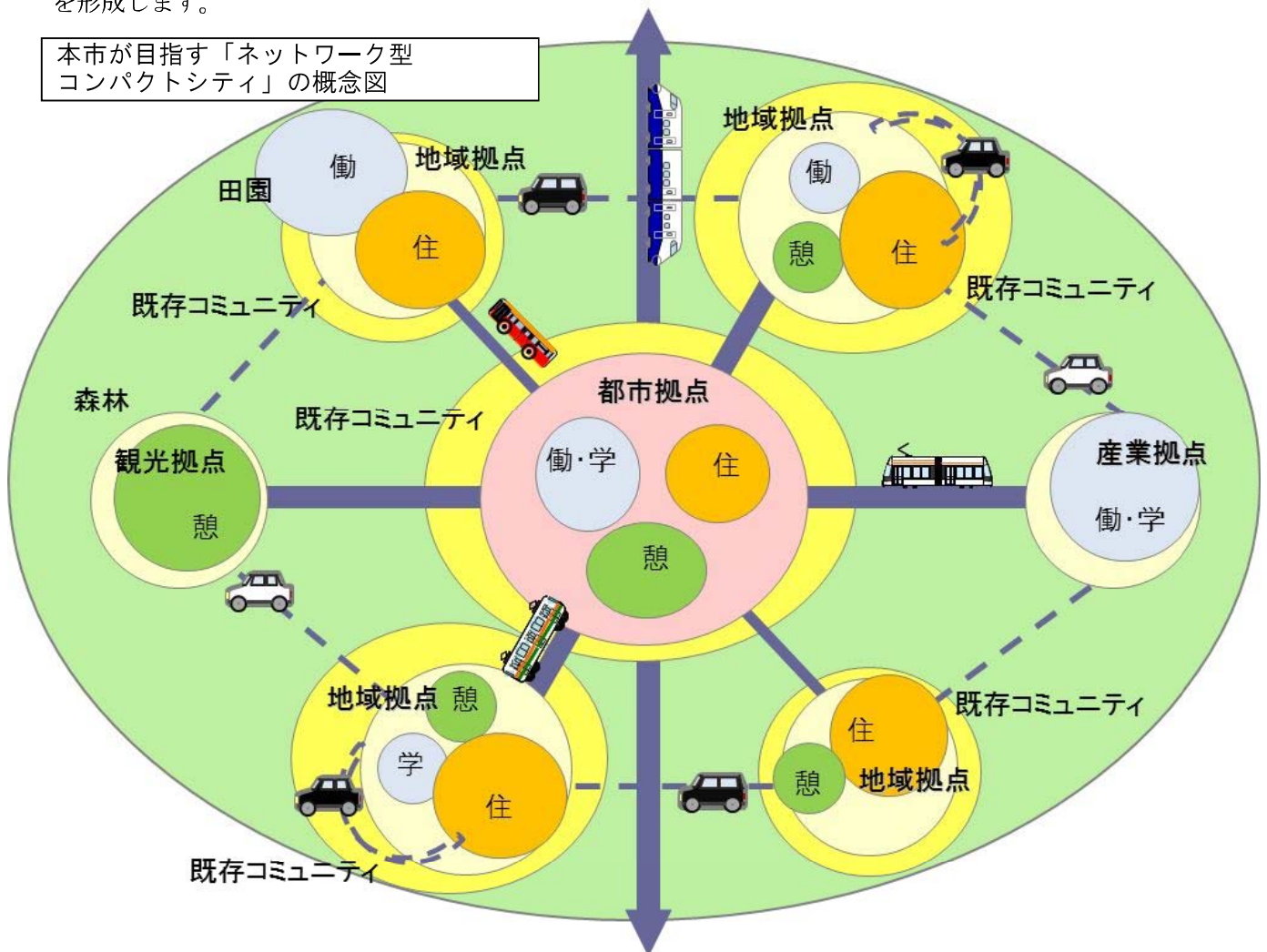
〔拠点化の促進〕

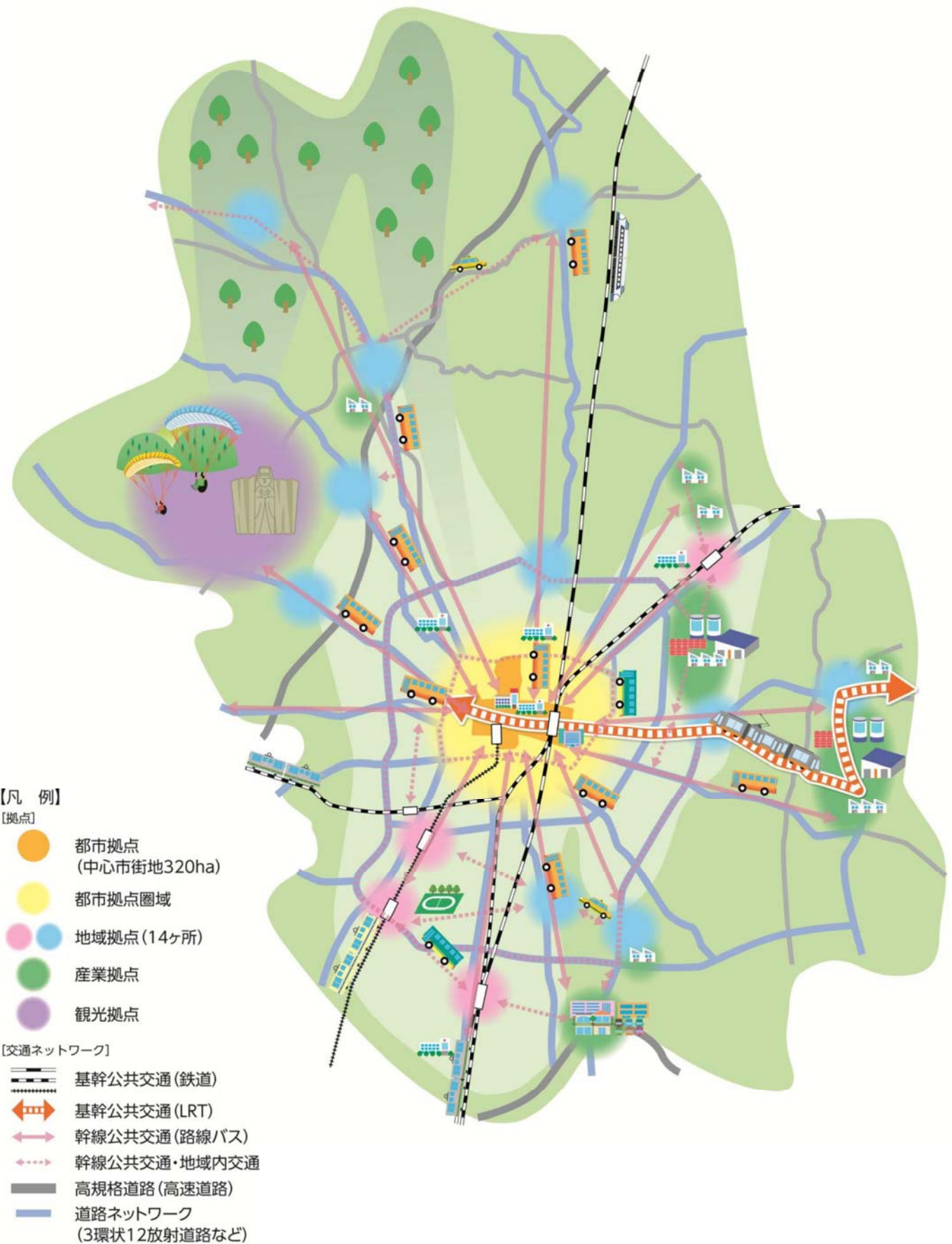
- ・『都市拠点』には全ての都市機能（「住」、「働・学」、「憩」）を集積し、都市の競争力を牽引する高次性・広域性を備えます。
- ・『地域拠点』には生活を支える「住」に関連する都市機能や地域特性に応じた「働・学」「憩」に関する都市機能を備えます。
- ・『都市拠点』と『地域拠点』の2層の拠点を配置し、拠点の連携・補完により、必要な機能を充足できる都市を形成します。
- ・「働・学」に関連する都市機能を備えた『産業拠点』や、「憩」に関する都市機能を備える『観光拠点』を配置・形成します。
- ・拠点形成に当たっては、これからの人口減少時代に対応した柔軟な機能配置による都市機能の集積を図ります。
- ・拠点の周縁部や郊外部において、農地や里山林などの緑豊かな自然を維持・保全します。

〔ネットワーク化の促進〕

- ・『交通ネットワーク』については、階層性を有する「公共交通のネットワーク」や、「道路のネットワーク」の構築により、バランスのとれたネットワークを形成します。
- ・各拠点間も地域特性に応じた交通ネットワークで結び、それぞれ役割を補完しあう関係を構築します。
- ・各地域の中で居住する全ての市民が、地域拠点の都市機能や施設に便利で快適にアクセスできる移動環境を形成します。

本市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」の概念図





● 拠点間の連携・補完により持続的に発展する都市

市の中心部に配置・形成される『都市拠点』と、各地域に配置・形成する『地域拠点』の2層の拠点を配置し、それぞれの拠点の連携・補完により、市民生活に必要な機能を充足できる都市を形成し、これらの拠点等の形成に当たっては、単なる都市の機能の集積だけでなく、その地域におけるコミュニティ形成の経緯を踏まえた市民同士の連帯や、福祉的なサービスへのアクセス性を確保することで、そこに居住する市民同士が、これまで以上に家族や地域のつながりによって相互に扶助する環境を実現します。

◆ 都市拠点

土地利用や都市機能の配置、都市基盤整備が一体としてまとまっているエリアである、中心市街地（『都市部グランドデザイン』における都心部の範囲320ヘクタール）を都市拠点とし、本市全体の活力向上を促す高次の商業・業務機能などの都市機能を高度に集積します。

また、以下の各地域については、都市拠点と連担し、強い関連性を持つ「都市拠点圏域」に位置付けます

拠点	市内の各地域
都市拠点	【都市拠点圏域】昭和・東・錦・西・中央・今泉・西原・築瀬・城東・宝木・細谷・戸祭・桜・富士見・明保・宮の原・陽東・峰・石井・泉が丘・御幸・御幸が原（22地域）

◆ 地域拠点

日常生活を支える地域拠点を、「鉄道駅」や「これまでの集落の成り立ち等を踏まえた場所」を核とする14か所に配置し、都市拠点との間や拠点相互で役割を補完しながら、市全体で市民生活に必要な都市機能を充足できるよう、地域特性に応じた都市機能を集約します。

		核となる施設等	市内の各地域
市街地部	公共交通結節点	(岡本駅)	河内
		(江曾島駅)	陽南・緑が丘
		(西川田駅)	姿川・陽光
		(雀宮駅)	雀宮・五代若松原
郊外部	主要な幹線道路等の結節点	(田原街道×長岡街道)	豊郷
		(鬼怒通り×清原中央通り)	清原
		(新4号国道×みずほの団地入口付近)	瑞穂野
	核となる施設等	(上河内地域自治センター)	上河内
		(篠井地区市民センター)	篠井
		(富屋地区市民センター)	富屋
		(国本地区市民センター)	国本
		(城山地区市民センター)	城山
		(平石地区市民センター)	平石
		(横川地区市民センター)	横川

【 拠点の都市空間形成のイメージ 】

都市拠点イメージ

- 駅前から商業・業務施設が高度に集積し、中心市街地にふさわしい風格のある街並みが形成
- 居住、医療・福祉などの機能が複合化した再開発ビルが集積
- 老朽建築物の一体的な更新がなされ、統一性のある都市景観が形成
- 歩行空間と調和の取れたLRT等の公共交通網が整備
- 賑わいと潤いを創出するイベント・交流スペースが配置
- 生活の質を高める文化・芸術施設等が配置
- 交通結節機能の充実による高いアクセス性



地域拠点イメージ

- 鉄道駅やバスターミナルなど、強い交通結節性が存在
- 地域内の移動や、都市拠点・近隣地域拠点への円滑な乗り継ぎ利便性を確保
- 日常生活に必要な商業施設、公共施設等が近接して立地
- 高い防災性やバリアフリー性を備えたゆとりある都市空間
- 集合住宅や戸建住宅の近接による高い生活利便性
- 地区市民センターや学校等の公共施設、医療・福祉、公共交通の結節機能などがコンパクトに配置
- 農産物直売所など、地産地消や地域の交流を促進する機能が配置

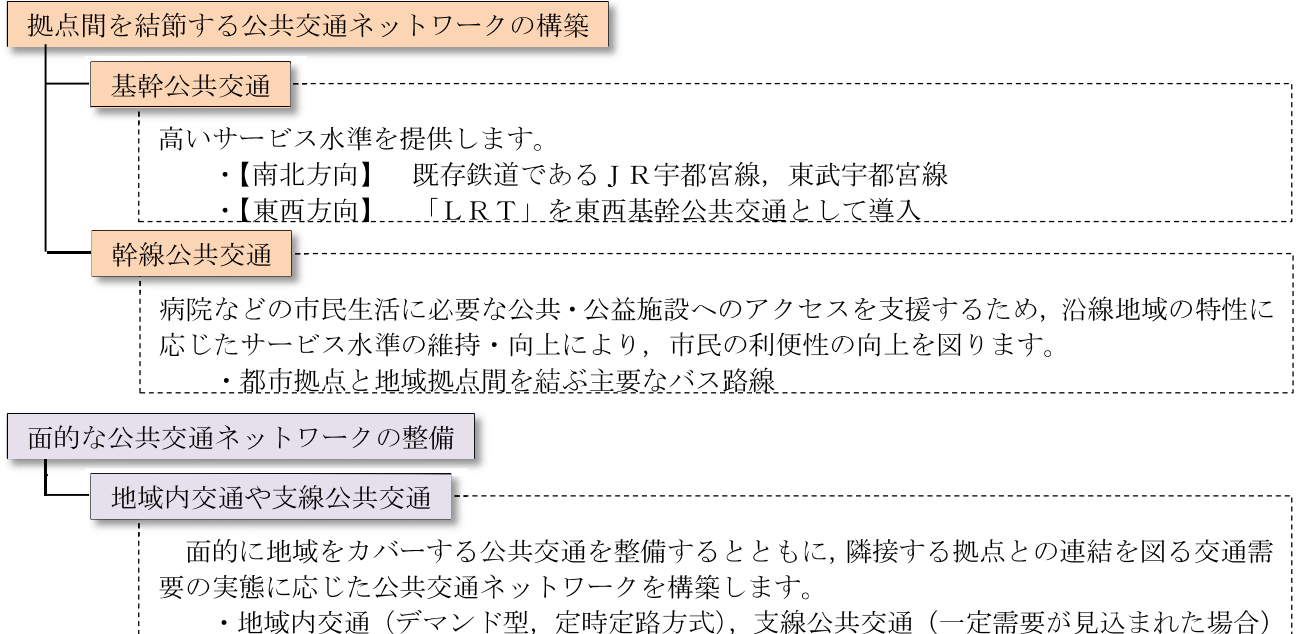


交通ネットワークが整備された利便性の高い都市

LRTや鉄道など広域性を持つ交通から地域内交通などの身近な生活を支える交通まで、階層性を持った公共交通ネットワークの構築を図るとともに、自転車走行空間・歩行空間の整備や道路ネットワークの構築など、バランスの取れた交通ネットワークを形成します。

◆公共交通ネットワークによる連携の方向性

拠点間を結節する軸としての公共交通や、地域を面的にカバーする公共交通などによる階層性のある公共交通ネットワークの構築を図ります。



◆公共交通ネットワークによる連携の方向性

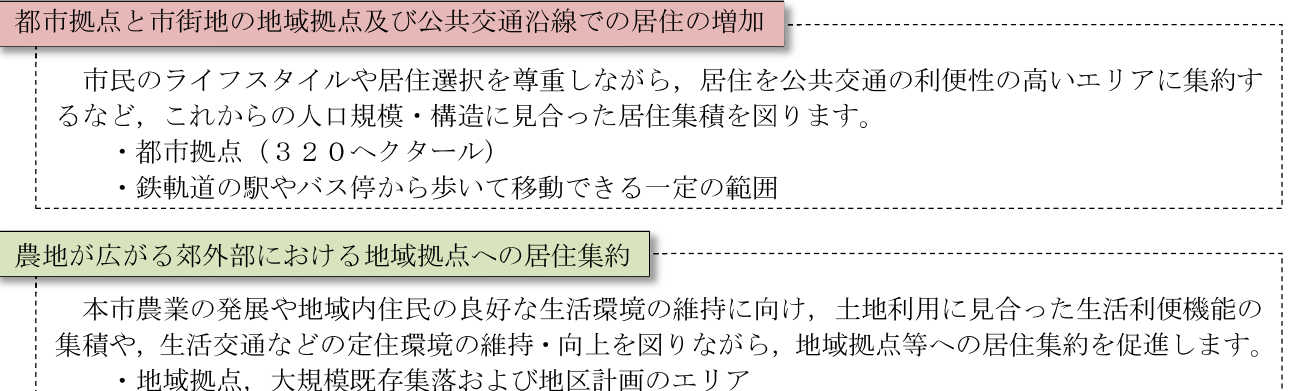
都市の骨格となる3環状12放射道路を核とした道路ネットワークによって、道路交通の混雑解消や交通の円滑化などを通じた公共交通サービスの向上や、観光や物流などを通じた経済の活性化を図ります。

自然環境や農地と市街地が有機的に連携した都市

都市の活力の低下を防ぐため、既に都市基盤整備の整っている場所へ居住集約を図るとともに、郊外に広がる農地を維持・保全しながら、農地や自然環境と市街地の有機的な連携を進めます。

◆良好な住宅地形成の方向性

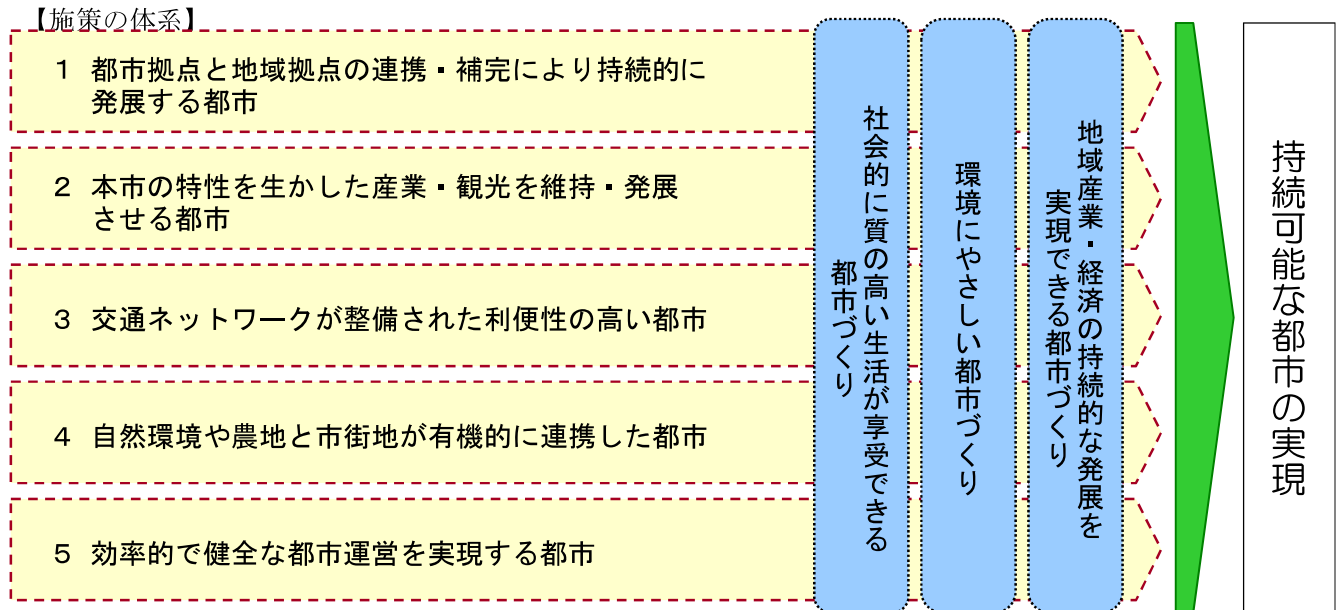
時間をかけて緩やかに適正な住宅地を、既に都市基盤整備の整っている場所において形成を図ります。



◆農地・森林などの自然環境維持の方向性

- ・農作物などの生産基盤であり、保水機能などの公益的機能を確保できる農用地、森林の保全を図ります。
- ・居住集約を図った後の住宅地については、地域の特徴に応じた利活用を進めます。

● ネットワーク型コンパクトシティ形成に向けた取組の方向性



◆取組の具体化に向けて

ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョンは、長期のまちづくりの方向性を示す指針であり、市民・事業者・行政の間でその方向性を共有することが重要であることから、各界各層からの幅広い御意見を把握しながら取組の具体化を図ります。

各界各層からの意見の把握

住民説明会の開催や広報紙での周知、出前講座の実施など、多様な手法を活用しながら、市民や事業者の皆様に対し、本ビジョンの内容について十分な説明を行いながら、本市の長期のまちづくりの方向性について理解の促進を図ります。

取組の具体化

各界各層からの意見を踏まえ、推進方策などの取組の方向性をビジョンに盛り込むとともに、関連する本市の計画や、国・県の動向なども踏まえつつ、ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けた取組の具体化を図ります。

『ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン 中間取りまとめ』の本編は、宇都宮市の公式ウェブサイトに掲載しております。

お問い合わせ先
宇都宮市 総合政策部 政策審議室
 〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号
 E-mail / u2005@city.utsunomiya.tochigi.jp

TEL / 028-632-2117 FAX / 028-632-5422